

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

本大会は2026年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに大会総則、本大会要項、競技注意事項および申し合わせ事項によって行う。

2 競技場の使用について

- (1) ウォームアップ場は補助競技場を原則とする。投てき種目の練習については、定められた場所（補助競技場の投てきピット）でのみ行い、安全については各校各自で十分に注意する。砲丸投は補助競技場の全天候舗装・芝生の部分では使用しない。
- (2) 全天候型グラウンドのため競技者は走高跳12mm以下、それ以外は9mm以下のスパイクピンを使用する。
- (3) 医務員は、本競技場1階医務室に常駐する。AEDは本競技場エントランスホールに設置する。

3 招集・点呼について

- (1) プログラムの訂正がある場合は、プログラム巻末綴込みにある「プログラム訂正用紙」に記入し、6日の7:30までに各県監督に提出すること。各県監督は集約し大会TICへ提出すること。
- (2) 招集所は、本競技場第2ゲートに設ける。
- (3) 招集の手順
 - ① 競技者は招集完了時刻の5分前までに招集所に集合し、最終点呼を受ける。その際、アスリートビブスとスパイクシューズ、衣類及び競技場内へ持ち込む物品等の確認を受けた後、競技役員の誘導に従って入場する。ただし、棒高跳の招集は棒高跳ピットで行う。
 - ② 招集時刻については、その開始時刻を基準とし下記のように定める。

	種 目	招集開始	招集完了
トラック競技	100m 200m 400m 800m 1500m 3000m	30分前	20分前
	100mハードル 110mハードル 4×100mリレー		
フィールド競技	走高跳 走幅跳 砲丸投	40分前	30分前
	棒高跳	70分前	60分前
四 種 競 技	200m 400m 100mハードル 110mハードル	30分前	20分前
	走高跳 砲丸投	40分前	30分前

- ③ 四種競技出場者は、最初の種目のみ招集所で競技者係の招集を受けるが、以後の2種目からは、トレーニングルーム内で招集を受ける。
- (4) 競技への出場をやむを得ず欠場する（混成競技の途中種目の棄権も含む）場合は、招集開始時刻までに、プログラム巻末綴込みにある「欠場届」を招集所に提出すること。
- (5) 競技が遅れた場合でも、プログラム記載時刻通りに招集を完了すること（時間厳守）。招集完了時刻に遅れたものは欠場とする。

4 競技運営について

- (1) 予選におけるトラック競技の走路順・フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。
- (2) 計時方法は写真判定（1/100秒）とする。
- (3) タイムにより決勝進出者を決めるときに、同記録者があった場合、同記録者の1/1000秒の実時間を判定して進出者を定める。その結果、着差がない場合は、レーンに余裕があれば決勝に進出させる。レーンに余裕がない場合は、同記録者または代理人によって抽選を行う。（競技規則TR21）
- (4) 短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。リレー競技においては、バトンを渡し終えた競技者は、他競技者への妨害を避けるため、走路が空くまで自分のレーンまたはゾーンにとどまること。
- (5) リレーのオーダー用紙は、予選・決勝とも招集完了時刻の1時間前までに、招集所に提出すること。決勝のオーダー用紙はプログラム巻末綴込みにある様式を使用する。
- (6) リレー競技のマーカーの使用は1カ所とし、マーカーは主催者が用意したものを使用する。使用したマーカーは、当該チームで処理すること。
- (7) フィールド競技の走幅跳・砲丸投は計測ラインを設けず、全記録を測定する。事情（天候その他特別な条件）により変更することもある（四種競技を含む）。
- (8) 四種競技の男子砲丸投は、4.000kgで行う。
- (9) 抗議申し立てについては、各県の総監督を通して、開催県中体連陸上競技部専門委員長に申し立てる。判定に不服がある場合は、正規の抗議申し立てをする。（競技規則TR8）
- (10) フィールド競技においてコーチ等からの助言は、スタンドのコーチングエリアから行うことができる。ただし、危険な行為をしないこと。

5 競技方法

- (1) 男女別団体対抗とする。

- ① 得点は下記のとおりとする。

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

- ② 同順位を共有する場合は、該当得点を折半する。

(例：3位が2人いた場合は6点＋5点÷2人＝5.5点)

- ③ 合計得点と同じ場合は、高順位の多い団体を上位とする。

- (2) 走高跳・棒高跳について。

- ① バーの上げ方は、下記のとおりとする。ただし、事情により変更することがある。

男子	走 高 跳	(練習1.60) 1.65-1.70-1.75-1.80-1.83 以後3cmきざみ (練習1.75)
	四種走高跳	(練習1.40) 1.45-1.50-1.55-1.60-1.65 以後3cmきざみ (練習1.60) 1.70-1.75-1.80-1.85-1.88
	棒 高 跳	(練習2.80) 2.80-3.00-3.20-3.40-3.50 以後10cmきざみ (練習3.60) (練習4.00)
女子	走 高 跳	(練習1.35) 1.40-1.45-1.50-1.55-1.58 以後3cmきざみ (練習1.45)
	四種走高跳	(練習1.20) 1.25-1.30-1.35-1.40-1.45 以後3cmきざみ (練習1.35) 1.50-1.55-1.60-1.63-1.66

- ② 1位決定のためのバーの上げ方は、走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

- ③ 練習については各ピットで申告し、選択した高さで練習を行う。

- ④ 四種競技において、最初の高さを失敗した競技者の得点は0点とする。

6 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、各県で配布されたものをユニフォームの胸・背部に確実に結着する。ただし、跳躍種目の競技者は、背または胸の片側につけるだけでもよい。
- (2) トラック種目に出場する競技者は、腰ナンバー標識をランニングパンツ右側の上部やや後方につける。なお、腰ナンバー標識のナンバーはレーンナンバーとする。
- (3) 腰ナンバー標識は各県で準備すること。

7 用器具について

- (1) 競技に使用する用器具は、棒高跳のポールを除きすべて主催者が用意したものを使用する。

8 表彰について

- (1) 団体対抗は3位まで表彰し賞状を授与する。優勝団体には優勝杯を授与する。
- (2) 個人（リレーを含む）は8位まで表彰し賞状を授与する。1位にはメダルを授与する。リレーはエントリー競技者6名にも個人賞状を授与する。
- (3) 各種目の8位までの入賞者は、競技終了後ただちに表彰控え場所に集合すること。ただし、リレーの決勝に出場する競技者には代理人を認める。

9 その他

- (1) 競技者は、その競技をする以外は、トラックおよびフィールドに立ち入ることができない。
- (2) 控え場所は、メイン競技場のコンコースに各県ごとに割り当てる。競技場内の芝生スタンドにテントを設置する場合は、軽い簡易テントとする。風で飛ばされないよう対策をすること。
- (3) のぼり旗及び応援横断幕等は「学校・団体」のみの設置とし、個人名や企業名を書いた応援横断幕・のぼり旗・応援グッズ等は許可しない。サイドスタンドからバックスタンドの競技場内中段通路より上、手すりのあるコンクリート面、最上段の手すり部分に設置可。のぼり旗はバックスタンド、サイドスタンド最上段の手すりにのみ設置可。常設の看板、ゲート名にかからないこと。また、個人名は認めない。
- (4) スタジアム内のシート・横断幕・のぼり等についての設置の際に、ガムテープの使用を禁止する。（養生テープは使用可）メイン競技場の塗装された壁にテープを張ることを禁止する。